

総務常任委員会

(令和3年4月19日)

○ 荻須智之委員長

こんにちは。

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

本日は、2月定例会議会において委員からご提案のありました項目、予算編成プロセスについて所管事務調査を行いますので、よろしくお願いします。

まず、代表して財政経営部長よりご挨拶をいただきます。

新しく財政経営部長になられました荒木部長、よろしくお願いします。

○ 荒木財政経営部長

改めまして、皆様、こんにちは。お疲れさまでございます。財政経営部、荒木でございます。

まずもって、固定資産税の納入通知書、これに一部、明細書で誤りがございました。皆様には既にご案内していることと存じますが、大変申し訳なく思っております。今後も、軽自動車税、あるいは市民税ということで、市民の皆様にご通知させていただく予定にしております。今後、こんなことがないように、チェック体制を万全に整えて、業者とも十分打合せをさせていただいて取り組んでまいります所存でございます。大変申し訳なく思っております。すみませんでした。

本日は、予算編成プロセスということで所管事務調査、お世話になりますが、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、本日の配付資料の説明をお願いします。

○ 廣田財政課長

財政課長の廣田です。4月から課長になりました。引き続きよろしくお願いいたします。では、早速資料の説明をさせていただきます。

タブレットのフォルダーですが、10休会中（3月～5月）、04総務常任委員会、令和3

年4月19日のフォルダー内のデータ名が001予算編成プロセスについてをお開きください。

資料の3ページをご覧ください。よろしいでしょうか。

#### ○ 荻須智之委員長

よろしいでしょうか。

お願いします。

#### ○ 廣田財政課長

この資料、横になっておりますが、決算から当初予算までの年間スケジュールを簡単にまとめたものになります。

左から右への横軸で4月から3月までの1年度の時間の流れを、それから、上から下への縦軸では順に議会日程の行の固まり、それから、レビュー・政策会議、当初予算編成、決算と、四つに分けてスケジュールを記載しております。

それでは、まず、一番左下の決算から説明してまいります。

ちょうど今ですけれども、4月から5月は出納整理期間ということで、今は令和2年度の決算を出納整理しているところがございますけれども、5月末に出納閉鎖が行われます。

その後、財政課では、6月の中旬ぐらいから、いわゆる決算統計と言われるものの作成作業に取りかかっております。正式な名称を地方財政状況調査といいますけれども、よく自治体間の比較などによく利用されている決算カードとかの数字の基礎になるものなんです、普通会計の決算などを国へ報告する調査となっております。

その決算統計の取りまとめから始まりまして、財政健全化法に基づく健全化判断比率の算定とか、議会に提出させていただいております決算資料の作成とかを並行して作業を進めていきます。

その後、例年7月20日頃になるんですけれども、これは、決算認定議案は監査委員の意見を付して議会に提出しなければならないと定められておりますので、この段階で監査委員による決算審査を受けます。

このように、決算資料とかが取りまとまってまいりまして、上のほうに矢印が伸びておりますけれども、一番上の議会の8月定例会議のほうに提出する流れとなっております。

例年8月15日のお盆前後ぐらいに大量の決算資料を財政課のほうで印刷して提出すると、そういうスケジュールになっております。

なお、ほかの自治体では、10月とか12月の議会に決算議案を提出するところも結構あるという中で、本市では、この8月に間に合わせるために毎年結構タイトなスケジュールで決算作業を行っております。

次に、決算作業を終えた財政課のほうでは、8月から9月にかけて最新の決算ベースの数字が出ましたので、それに基づいて中期財政収支見通しの作成作業に入っております。

これは、歳出でしたら過去の実績の推移とかが伸びておるとか、それから、将来の伸びを推計するとか、それ以外に、特に歳入のうち市税収入について、特にこの時点の仮の見通しというのを立てております。ここは、2階の市民税課や資産税課とともに数字をこの時点で見込んでおるわけなんですけど、そういう作業を行っております。

そして、この中期財政収支見通しで、歳入のほうを見込み、それから、歳出の見込みが出てまいりますので、その収支差が、例えばマイナスが大きくなると見込まれるということであれば、新年度の予算編成が非常に厳しいであろうと予想されるわけですので、例えば、シーリングをかけなければならないんじゃないかとか、補助金を一律カットしなくちゃ予算が組めないんじゃないかとか、各部局の予算要求の段階で抑制するための手法をちょっと検討しまして、その後、ちょっと上に矢印、伸びておりますが、予算編成方針を10月の頭に出しておるんですけど、この予算編成方針の中でそういう手法を反映させると、そういうことになります。

少し戻りますけれども、8月定例会議会において決算認定議案をご審議いただいて、いつも全会一致でまとめていただきまして、議長名でちょうど9月末頃に議会からの提言をいただいております。それがまたこのタイミングで出ますと、予算編成方針や各部局の予算要求に内容が反映してくると、そういう流れになっております。

ですので、例えば、議会からの提言をいただく時期がもっと遅い段階になりますと、各部局の予算要求に間に合わないということになりますので、よそのまち、自治体であるように当初予算への決算の反映が1年遅れるということになります。四日市市は最新の決算を次の新年度の当初予算に反映させる流れで動いておると、そういうことでございます。

ここまでの説明が決算から予算要求までの流れとなりますけれども、もう一つの流れといたしまして、上から二つ目にレビュー・政策会議の固まりがございます。

これは政策推進課が事務局で中心となってやっておりますけれども、今年度についてもあしたからちょうどスプリングレビューの日程がスタートするところでございますので、毎年、定例のスプリングレビューとサマーレビューのほか、随時に開催する政策会議という

場を設定しておりまして、市長、両副市長の二役、それから、政策推進部長、総務部長、財政経営部長——いわゆる三部長と呼んでおりますが——こうしたメンバーが出席いたしまして、各部局が抱える課題、懸案に対して本市の方針などをその場で議論しております。

ここでは、例えば、各部局からのボトムアップとして、新規拡充の予算要求する前の事前協議であったり、あるいは、トップダウンで指示があった事項に対して各部局で検討した結果を報告したり、今後の方針案を協議したりとか、そういう各部局の様々な課題、懸案を議論する場として機能しております。

したがって、こうしたレビューの場で議論とか方針の決定があって、それを受けて各部局が10月の当初予算要求にその内容を反映させてくると、そういう大きな流れになっております。

また一方、次に、推進計画のローリングがあるんですが、例年8月の下旬頃から11月、12月上旬ぐらいにかけて推進計画事業のローリングを政策推進課のほうでやっていただいております。

既存事業のローリングだけではなくて、新規事業を推進計画に位置づけるかどうかとか、そういうものについても、この時期に二役まで方針を諮った上で、新年度の当初予算に係る部分については、各部局の当初予算要求に適宜反映させながら調整をしておると、そういうことでございます。

その後、各部局の予算要求があった11月頃から財政課で予算調整をスタートさせていくわけなんですけれども、財政課のほうで予算調整がある程度取りまとまった段階で、例年12月下旬から1月中旬ぐらいまでなんですけれども、二役と三部長が出席する予算会議というのを連続して開催しておりまして、推進計画事業や主要事業の予算というものをその場で決定しております。

このような当初予算の編成過程を経まして、2月定例会議に当初予算案が提出されてくると、そういう一連の流れとなっております。

今、ご説明したスケジュールにつきましては、標準的な年度の流れなんですけれども、例えば、新総合計画を策定した年度であったり、市長選挙で市長が交代した年度とかは、ちょっと流動的なスケジュールになりますので、このとおりに進まない年度というものもあるんですが、その点についてはちょっと補足をしておきます。

3ページ目の資料の説明は以上で、4ページ目以降につきましては、昨年10月に出しました予算編成方針でございます。これは何度か資料を見ていただいておりますので、

説明のほうは割愛させていただきます。

私からの説明は以上でございます。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

説明はお聞き及びのとおりです。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑のある方は挙手にてご発言願います。

○ 豊田政典委員

資料の説明ありがとうございました。

決算の準備について、議会から要請に応じて、全国的にもめちやくちや早いスケジュールでやっただけだと何度も言っていたかと思いましたが、ありがとうございました。

質問ですけど、幾つかあるんですけど、少しずつ行きますが、まず、スタートの春と夏のレビュー、ありますよね。誰がやるのかなと聞こうと思ったら、二役プラス三部長という答えでしたよね。例年の場合の具体的な内容というのをもう少し教えていただきたいというのが一つ目。

じゃ、1個ずつ。

○ 田中政策推進課長

お世話になります。政策推進課、田中でございます。

レビューの具体的な内容といっても、都度都度やっておりますので、特段あらかじめ具体的な内容というのをお答えするものじゃないんですけども、基本的には、先ほどの説明にありましたような、各部局におけるこの年度、今でいえば令和3年度において、強く進めなければいけないような課題案件です。あと、推進計画事業でいいましたら、より具体化しなければいけないものについての頭出しとか、そういった案件もろもろという形になります。

以上です。

○ 豊田政典委員

ちょっとまだ具体的に見えてこないんですけど、コロナがあるので特殊かもしれないですけど、じゃ、今年度やっている内容とか1年前にやった内容、スプリングレビュー、サマーレビュー、少しご紹介いただけませんか。

#### ○ 田中政策推進課長

個々にどうこうというものでは、何かというと政策形成過程における情報ですという形になりますので、あまり個々にどうこう言うというのはちょっとなじまないかなと思いつつながら話しておるもので、ちょっと歯切れが悪くて申し訳ございません。

基本的には、昨年度であれば、推進計画1年目という形になります。だから、推進計画の中で位置づけてあるものの、まだこれからの取組が明確でないものについて、今後どのように調査、研究を進めて事業の具体化を図っていくかというようなものがオーソドックスなものかなと思っております。

#### ○ 豊田政典委員

全然中身が見えないので、言いにくい理由も分かりませんが、もっと昔の話でもいいですから、例えば、この年にはこの案件、この事業についてやったというふうに言ってもらわないと全く見えません、そんなのじゃ。

僕は、最終的に何が聞きたいかという、市長の意向がどこまで、どこで反映されるかとか、それから、国の事情というか、必ずやらなきゃいけないのはどのぐらいだとか、そういう全体像を把握したいのでね。ちょっと言ってくれてもいいんじゃないかなと思いつつながら。

委員長、どうでしょう。

#### ○ 萩須智之委員長

何か具体例で示していただくような案件というのは、今、即座に出ませんか。

#### ○ 田中政策推進課長

何かという問い自体が適さないというお答えなのでかみ合わないんですけども、何か新規事業をやりたいという部局があるということでもあります。これこれこういうテーマが、例えば、市長の所信表明であるとか、総合計画の中の位置づけであるとか、そういうもの

の位置づけがあるものがございます。

ところが、現時点で毎年こういうふうに事業をやっていくというような道筋が立っていないようなものがございます。そういったものに関して、部局なりに、じゃ、他市事例等であるとか、四日市市の状況とか、そういったものを分析したり、課題の整理をしまして、こういった方向性で行っていきたい。もしくは、この夏までに、例えば他市等を見に行かせていただくとか、全国の状況を紹介するとか、そういった取組をしてみたい。そういった方向性で、全然方向性が違うということであれば、その時点で市長や副市長から指示が出るわけなんですけれども、こういった方向性でいいだろうか、この方向性で掘り下げていきたいというようなことを例えばスプリングレビューで諮るというような形です。

それを受けて、サマーレビューというのは、また夏場ですけれども、そういった方向性で、さらに事業を深掘りしていった。それについて、こういうスキームで行えると思うというような中間的な答えというものをまた副市長なり市長なりに部局として諮っていくという形になります。

それを、この流れでいいますと、推進計画のローリングの中にまた落とし込んで、具体的な事業費ベース、仮の大ざっぱなものになるかもしれませんが、それをまた落とし込んでいって、事業をさらに細かくしていく。

先ほど、また財政担当者のヒアリングというのが11月頃からというような流れ図になってございますけれども、推進計画として大きな方向性の事業構築というものが行けそうやということになると、さらに細かく予算の積算のほうを突き詰めていくというところで、財政課さんのほうにも予算の査定というのを行っていただく。

そして、最終的には、当初予算編成につないでいくと、そういった流れになってございます。

あと、国とかという話もありましたけれども、それは事業によりけりというところがございます。事業の中で、もう市の単独経費でしか賄えないようなものであれば、あとは制度上可能かどうかという話になってまいりますけれども、国、県等の何らかの補助金や交付金が見込めるものであれば、同時並行でそういった申請作業とか申請に必要なものを整えながらというような流れとなってまいりますので、その採択も、例えば年末ぐらいにしか分からないということであれば、同時並行でそういった作業もしまして、最終的に当初予算編成に間に合わせると、そういった流れになろうかと思えます。

具体的な事業でというふうなのはちょっとお答えしにくいもので、流れ的にはそういつ



たふうにご理解いただければ幸いです。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

答弁後半の流れはそのとおりだなと思って聞いていますが、ずっとそのレビューの話をまだ聞いているんですけども、まだこだわっていくんですが、さっき最初の説明のときに、例えばトップダウンでどうのこうのということがあったので、具体的な大きな事業やプロジェクトをやるのかなと思ったんですけど、そうじゃないと。そうじゃなくて、例えば推進計画にあまたある事業を一通り触ったり、そういう作業をレビューでやるということですか。

#### ○ 佐藤政策推進部長

このレビューの案件の中身なんですけれども、どちらかといえば大きな方針というか、大きな事業については、ほぼ推進計画で示してございますので、現実的な問題として、じゃ、この推進計画事業をやろうとしているんだけど、こんな課題があつてなかなかうまくいかない。それに対してどういうふうにやったらいいとかいう、その方針をまずスプリングレビューのほうでいろいろともんでいただいて、夏までにもう少し具体的なブラッシュアップしたような格好で再度検討せよと、そんな感じのほうが多いです。

まるっきり新規でどっと上がってくる、何か上がってくるとか、トップダウンとかいうのなんかは、市長交代したときとか、そういうのは結構あるかも分かりませんが、ふだんはそれほど、そういうのは少ないですけどね。

#### ○ 豊田政典委員

そうすると、推進計画で次年度にあるような事業を一通り見たときに進め方に課題がありそうなやつを協議すると、そういう場合が多いということですね。

もう一つ行きますが、それで、こういう流れの中で、10月に予算編成方針というのが様々な要素の矢印が来て固まってきますよね。

4ページ以降に示していただいた編成方針ですけど、これは市長名で出ているんですけど、各部局の予算編成の基になるやつなので、例えば3%シーリングとかね。これって誰が考えて誰が決めるんですか。作り方。

## ○ 廣田財政課長

誰が作るかといいますと、財政課のほうで作って、担当も書いたりもしますけれども、文案を考え、あとは、財政経営部の担当副市長のほうにも相談をしながら文案を考えまして、最後、市長のみえる会議に諮りまして、こんな文案、こんな内容でよろしいかという調整をして、一部修正が入ったりしながら最終案という形で9月の下旬頃に決めております。

## ○ 豊田政典委員

その編成方針が一番スタートになって、一番スタートというか予算の関係のスタートになって、各部局が10月から予算要求を入力していくと。

各部局はどうやってその要求をするんですか。

## ○ 廣田財政課長

各部局の予算要求ですけれども、大きくは1次経費と2次経費というふうにちょっと分かれていまして、どちらかといいますと政策的な経費が1次経費で、2次経費というのが経常的な一般の経費になるんですけれども。

要求入力をするのは、システムのほうで要求入力をするわけなんですけれども、基本的には、前年複写という機能がありますので、2次経費については、特に前年のデータを複写しながらその金額を新年度向けに直しながら時点修正をして入力することが多いかなと思います。特殊要因とかがあって来年度必要な経費というのは、そのための資料とかを添付しながら予算要求をします。

一方、1次経費の政策的な経費につきましては、推進計画事業であったり、各部局の主要な目玉事業であったりするわけですので、それぞれについては、年度ごとの取りまとめた各部局が要求したい内容というのを自分たちで数字をつくって、それなりの積算根拠を持って財政課のほうに予算要求を提出してくるということになります。

ですので、数字も含めて、基本的には、各部局が要求する数字も含めて積算してまいります。

以上です。

○ 豊田政典委員

各部局によって違うと思うんですけど、2次経費というのは大体どのぐらいなんですかね、その部局の全体の中の。

○ 廣田財政課長

人件費が1次経費ですので、300億円ぐらいしかないと思います。ごめんなさい。一般会計1200億円のうち、4分の1ぐらいしかございません。

○ 豊田政典委員

もうちょっとだけね。各部局の話になっちゃうんですけど、例えば、推進計画にもなくて新たにやりたいなという事業を要求するとするじゃないですか。そういうのって、どうやって決めるんですか、各部局の中で。

○ 廣田財政課長

各部局によっても様々で部長までの意思決定をきちんと経て上がってくる場合もありますし、それほど大きくない話でしたら、各所属長の範囲で各所属の増要求、新規要求であったりする場合があります。内容によっては、レビューできちんと諮られていないようなちょっと乱暴な内容であった場合は、財政課のほうで調整が入るという場合もございます。以上です。

○ 荻須智之委員長

豊田委員、よろしいですか。

○ 豊田政典委員

取りあえず。

○ 荻須智之委員長

ほかはいかがでしょうか。

○ 森川 慎委員

今の豊田委員とのお話の中で分からんことだけ教えてください。

まず、スプリングレビュー、サマーレビューというのは、会議の名前ではないんですか。よく分からん。何か期間の概念なんですか。何を指してサマーレビューという名前か、よく分からへんかったんですけど、聞いていて。

#### ○ 田中政策推進課長

確かに、すいません、業界用語という言い方が変かもしれませんが、ちょっとそういう呼び方をしているだけだといえそうなかもしれません。

具体的に何を指しておるのかといいますと、各部局における次年度以降に向けたとか——今年度の場合もありますけれども——案件について、副市長や市長に集中的に諮っていく一連の会議のことをそう言っているというところです。

政策推進部の立場からいいますと、そういった中で、最終的には推進計画のローリングを行った上で当初予算編成につなげていくわけなんですけれども、そういった市の重要政策について、方向性を定め、より精緻にしていくという流れです。

それを秋から冬にかけてというのが予算編成であるとするなら、年度の前半、春の時期、夏の時期に集中的に検討を行う。そういったために、市長や副市長の予定もちょっとまとまってその時間を取るとともに、各担当の部長に関しても、それに目掛けて各部内の担当課に資料の作成や取りまとめ等を指示すると、そういった期間になってございます。

#### ○ 森川 慎委員

そういう期間というか、会議は何回か持たれるということですね。監査みたいなイメージですか。

#### ○ 田中政策推進課長

日程は、何月何日の何時からがどこそこ部という感じで時間を割りつけまして、それぞれの部局、順々に副市長や市長に案件を諮っていくという形です。それに関しては、こちらの三部も同席しながらというところです。

#### ○ 森川 慎委員

資料とかを基にして、こんなことをしたいですということを三部長、二役に諮っていく、

そういうのが1週間とか何日か分かりませんが、期間を取ってもらってのサマーレビューだったりスプリングレビューになるんですか。

分かりました。ありがとうございます。

## ○ 豊田政典委員

今の続きみたいな感じですけど、この3ページを見ていますけど、ずっと。スプリングレビューがあって、サマーレビューがあって、ローリングというのが9、10、11月、3か月ありますよね。

私の勝手な感覚だと、ローリングというのは、その年の事情で元の計画が変わったよという、結果しか見ていないですけど、3か月の間に何をしていますか、もうちょっと。

## ○ 田中政策推進課長

ローリングの期間が9、10、11月というふうに3か月もちょっと矢印を書かせていただいている、その点についてというところです。

先ほどから、そういうスプリングレビューやサマーレビューを経た上でというようなご説明をさしあげておるんですけども、その上で各部局というか、各推進計画事業を持っているところからは、じゃ、次年度以降のこの推進計画の事業をこのようにしていきたいというものが出てまいります。それが8月の下旬から9月の初めぐらいにかけて、それぞれちょっとお出しいただくという形になります。それを私ども政策推進課とか政策推進部として取りまとめていく作業です。

実務的な流れでいいますと、まずは担当者レベルでそれぞれの担当課のほうにそれぞれの事業内容を確認しに行き、どこが今回のローリングというか事業の変更点なのか、その理由はどうか、どれくらいのボリューム感なのかというのを再度聞き取っていくという流れになります。

それがそもそものスプリングやサマーレビューにおける方向性に合っているのかいないのかとか、マイナーチェンジのものであれば、各担当課レベルでちょっとこういうマイナーチェンジなんだというレベルでの説明をいただくという形になります。

それを各担当が部局に聞き取りをしまして、課として各部の状況を把握し、それをまた部長レベルにまた確認をし、それを副市長レベルや市長レベルまで案件を確認していくという流れになります。それがボトムアップといいますか、課レベル、部レベル、副市長レ

ベル、市長レベルというふうにお諮りするとか、諮っていくレベルを上げていくという形になります。

最終的には、11月定例月議会の予算常任委員会協議会のときにローリングの一覧としてご披露しているものになっていくんですけども、そこへ行くまでにそういった順々に元の担当者レベルから市長レベルまで上げていくという作業をしておりますので、それに時間を要しているというところです。そういった作業の中で、ちょっと事業構築の甘いものとか、金額的にも精査が足りないものというのをふるいにかけていくというようなことになります。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

二つ目の列に書いてある推進計画ローリングというのは、今、説明があったように言葉どおりで、当初の計画から変更のあったやつだけをやっているんですか。推進計画どおりで次の年にやれるようなやつは、変更のないやつがありますやんか。それはどこで触ったりするんですか。

#### ○ 田中政策推進課長

ご指摘のとおり、基本的には変更のあるもの、大なり小なり変更のあるものについて諮っていくという形になります。

ただ、その一方で、変更がなかったものについて、これを裏づけとか、本当に変更はないんだなということとか、場合によっては、先ほどの冒頭の説明にありましたように決算というのも出てきておるわけですから、決算額と乖離があれば、逆に、ちょっと変更じゃないはずないだろうという言い方が悪いんですけども、変更を余儀なくされているのに出てきていないものはないのかと、そういう目でも見ていくということが必要ですので、そういう作業も裏づけとして行っているところです。

#### ○ 豊田政典委員

そうすると、このまとめてもらったスケジュールの3か月に及ぶ推進計画ローリングと書いてあるやつの中に、今説明いただいたような、3か月間に変更があったやつは変更理由とかやり方、変更のないやつについても確認作業、そういうのを含めてこの間に矢印の

中でやっていると、そんな理解をしますので。

それで、もう少し先に行きますと、予算要求入力期間というのがその下の列にあって、ヒアリングやって予算調整。中身はよく分からないんですけど、取りあえず、各事業には事業調書みたいな、必ずペーパーがついてくるんですか。質問が変なのか、よく分からないんですけど。目的があったり、手法があったり、何を書いてあるのか、よく分からないんですけど。ちょっと教えてください。

#### ○ 廣田財政課長

予算要求を入力しますと、予算要求書というものが紙で出てくるような仕組み、システムになっていまして、そこに事業の概要ですとか、財源ですとか、あるいは各節、需用費の消耗品費で、明細01番は単価、掛ける数量、幾らで要求とか、それが需用費から旅費、ずっと各節の要求金額がずらっと並んでいるような書類が出てきまして、その書類が基本に、あと不足する情報としては、各所属のほうで補足資料なり、エクセルで作った補足資料なり、国から来ている通知文の写しなりとか、そういう付随する情報を参考資料として提出をして、財政課の予算担当者のほうではそれを一式頂いて、分からないところはヒアリングをしながら、その予算額が過大な予算要求でないか、やりたいことがぴったりやれる額の予算要求かどうかというのを毎欄精査させていただいておると、そういうものです。そういう書類を頂いております。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

取りあえず終わります。

#### ○ 萩須智之委員長

よろしいですか。

ほかはいかがですか。

#### ○ 村山繁生委員

スプリングレビューとかサマーレビューが当初予算の基になるということは分かるんですけど、例えば、12月にどうしてもやりたい事業が出てきたという場合に、当初予算の調

整に入り込むことができることもあり得るのか、それとも、これはもう補正に回さなきゃならないのかということをちょっと確認したいです。

#### ○ 廣田財政課長

時期が、例えば12月とかに急に飛び込みの情報が入ってきたということで、急遽、当初予算に間に合わせなければならないとなった場合、その案件を当初予算にどうしても乗せていくか、あるいは、もう2月補正にするのか、6月補正にするのか、そういういつ予算化するかも含めて、その事業の必要なスケジュール、緊急度合いとかも含めて財政課のほうで調整をしまして、急遽、必要ならばすぐ予算要求、画面を上げるからすぐ入力してくれということで、もうはしりながらも急ぎで調整することになります。それで何とか1月の中旬に間に合わせると、そういうことがもう日々あるわけでございます。

以上です。

#### ○ 村山繁生委員

あり得るということで、それも含めての予算調整ということで。

その右の復活要求というのは、もうちょっと説明してください。

#### ○ 廣田財政課長

すみません、説明が不足しておりました。

当初予算調整を市長までずっと1月15日ぐらいまでするんですけども、例年15日の成人の日頃過ぎになるんですけども、各部局に予算内示というものをしまして、財政課の予算担当者が8人おるんですが、その8人が、例えば総務部の担当であったり、環境部の担当であったり、それぞれ担当部局を持っておりまして、その担当部局の各所属を回って、幾らで予算要求されたやつが幾らになったよと。それで、例えば幾らにした理由についても説明をしてくるというのが、その時点で予算内示という説明する作業がありまして、そこで、各部局、その示された予算額を見て、どうしてもこれはのめないと。

例えば、もう新年度から早速自分ところの部局としては困ったことになるので、どうしてもこの予算については認めてほしいとか、復活の予算要求という調整する場がありまして、そこで、各部局長まで通して復活要求のあったものについては、もう一度市長までの再調整の場を設けておると。そういう復活調整の場というのが、どこの自治体でもやって



いると思うんですが、そういう再調整の場というのがございます。

以上です。

#### ○ 村山繁生委員

そこでいろいろ無理のgori押しとか、そんなもの、いろいろ議論があるわけですね。分かりました。

#### ○ 萩須智之委員長

よろしいですか。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

#### ○ 豊田政典委員

次は、推進計画は分かります。推進計画になかったけど、例えば、渡辺部長のところではシティプロモーションについて部局で話し合ったら、こんなすごいアイデアが出たと。これはぜひやりたいぞ。何かのチャンスがあったりして。シティプロモーションであったとするじゃないですか、じゃ。それはどこかに入り込める隙はあるんですかね。これ、ちょっとやりたいわ。特別枠、あまりないんですか、そういうのは。

#### ○ 廣田財政課長

そもそも重要で、市の重要施策ということであれば推進計画事業に位置づけられるので、重点的にも予算がつくということですがけれども、それをちょっと外れて、いいアイデアが職員にあるということであれば、例えば、政策推進部のほうでやっていただいている職員提案の制度があって、いいものについては翌年度事業化を図っておるとか、あるいは、各部局のほうでどうしてもやりたいという現場のほうから上がってきたいいアイデアがあったということであれば、例えば、まさに今スプリングレビューで、来年度拡充したい事業があるんだけどということで、今回二役の方針を諮っていくと。その内容がよろしければ、予算化までたどり着くケースもございます。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

ほかのケースとして、例えば、一般質問、代表質問で、樋口博己委員が素晴らしい提案をしてくれたのでってなやつが、何月にしようかな、11月定例月議会で出たとしますよね。これはぜひやりたいとなったらどうなるんですかね。

#### ○ 廣田財政課長

まさに11月定例月議会の一般質問で前向きな答弁をするようなケースというのが財政課にとって一番つらい時期になるんですけれども、前向きなご答弁をすることになったと。やっぱりちょっと予算としても当初予算に乗っていないと格好がつかないということになれば、急遽、見積りを聴取したりとか、慌てて積算をして当初予算の要求に追加していくという、走り回る、いつもさせていただいております。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

また違う話なんですけど、その予算要求とかというのがあって、基本、推進計画じゃないような事業かな、各部局が新たにやろうとした場合に、提案というのはあくまでもペーパーでまずやる。それで、不明な点とか詳しいことを聞きたいときにヒアリングから入って調整に入っていく。

つまり、どこかの場で、提案部局、課がプレゼンテーションするとか、そんな場面は実際ないんですか、ペーパー以外に。新規じゃなくても、部局別に何か、二役、三部長に向けて、プレゼンテーションタイムって、そんなのはないですか。

#### ○ 廣田財政課長

四日市市の場合は、各部局がある時期にそろってなかなか整うというのがちょっと難しいこともございまして、今言われたようなプレゼンの場を例えば10月とかに各部局長が市長にプレゼンするようなことはやってはないですけれども、ほかの自治体で10月、11月とか9月頃に、各部局長からそういうしかるべきトップの経営層に対して、来年度自分のところのやりたいことというのを訴える場というのを設けて予算要求されておる自治体もあります。四日市は、ちょっと申し訳ないですけれどもやっておりません。

以上です。

## ○ 豊田政典委員

ちょっと話は違うんですけど、一般財源1200億円あるとして、推進計画で何%、何億円ぐらいで、イメージとしてね。それから、最初に言ったかな。福祉関係なんかで必ずやらなあかん事業、必ずじゃないですけど、やらなあかんやつがありますやん。扶助費や公債費、義務的経費。自由といたら変ですけど、政策的に、その1200億円のうちで各部局や二役が自由にそこに政策的に使える金ってどのぐらいなんですかね、推進計画事業以外。じゃ、推進計画もどのぐらいか。

## ○ 田中政策推進課長

推進計画の規模感ということで申しますと、各年度300億円ぐらい、ローリングのときにちょっと申し上げておる数字なんですけど、大体300億円内外という形となっております。

## ○ 豊田政典委員

1200億円のうちの300億円が推進計画として、あとは義務的経費と福祉みたいなやつ。福祉みたいな、決まったような予算、ほとんどない。

## ○ 廣田財政課長

1200億円の内訳といたしましては、推進計画にはほぼ人件費が含まれておりませんので、推進計画事業で300億円、これは、政策的な経費に当たろうかと思うんですけども、それ以外に義務的経費で大体人件費が200億円あります。公債費、借金の返済に今は70億円ぐらいでございます。

ですので、570億円はこれで使い道があるんですが、残りの半分ぐらいについては、ほとんどが社会保障関係経費の福祉部門の使うお金というのが多額に上りますので、福祉とか教育とか、そもそも行政サービスを例年どおり提供していくとそれだけお金を使うので、増えた分というのは、逆に、対象者数の増とかで伸びていく部分というのがありますので、残り、自由な経費が幾らあるかというのは、ちょっとそこまでは計算しておりませんが、300億円の推進計画にそれらの社会保障関係経費を除いた経費で300億円、プラス数百億円は政策経費として考えていいのかなと思います、公共投資も含めてですけども。

以上です。

○ 豊田政典委員

取りあえず。

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。

ほかはいかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

そうしましたら、レクチャーのときに副委員長がいいことを言われまして、こういう流れに議会がどう介入するかということで、提言シートとか一般質問、会派の提言、要望を出される会派もあるわけなんです、その辺りをちょっと言及していただけるとどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

特に、提言シート、この決算、予算のサイクルというのは、全国的にも珍しいパターンで我が市が誇るべき形態として豊田委員が始められた施策ではありますけれども、その辺に対して市側が頑張ってお応えにしているという辺りについて、他市と比較していただいてもいいんですが、どういうメリットが出てきたかということでも結構なんですが、お言葉をいただけませんかでしょうか。

○ 廣田財政課長

全会一致で議長名で提言をまとめていただけるということは、これまで会派別の要望書をそれぞれいろんな時期に頂いたりとかするよりも、整理されて我々のほうに伝わるということで、そういう意味では、項目も絞られておりますし、ある意味大変助かっております。

特に、委員会での議論とかを聞けば、どのようなご意見が、それぞれ経ていって、そういう要望という文案という形にまとまってきたかということも聞き返すこともできますし、そういう意味では、予算への反映という意味では、現在は努力をさせていただいております。

以上です。

### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。予算へ反映されているということでは効果があったというふうに認めさせていただければいいわけですね。ありがとうございます。

ほか。

### ○ 豊田政典委員

今の話に関係するんですけど、議会側も、さらにその予算編成、予算づくりに今後関わっていくべきだと私はずっと思っております。今後さらにという下でこの表を見てみると、最初からちょっと気になっていたのが、10月の初めに当初予算説明会というのが行政内部であって、予算編成方針が示されると。そこで、中期財政収支見通しも示される。けれども、議会には3か月弱遅れで年末まで示されませんよね。

これは、ローリングの部分には仕方がないにしても、予算編成方針や中期財政収支見通しって、財政見通しもここまで示されないんですけど。

### ○ 廣田財政課長

いつも、確かに11月定例会議会の途中で予算編成方針とか中期財政収支見通しを予算常任委員会協議会に切り替えて説明させていただいておるんですけども、10月の頭に当初予算説明会を庁内で開いております。そこでは、中期財政収支見通しの細かいところまでは職員向けにもまだ出してはおりませんで、まだ暫定版という形になっております。

というのも、特に税が、10月から11月にかけて各企業の経営の経常利益の見込みであったり、将来の経営計画を見込んだ来年度の利益であったり、当市の計画であったりというのを聞き取ってアンケートさせていただいております。

それから、年末に税制改正大綱というのも出てまいりますので、まだその辺の情報は全然分からないということで、税収の見込額まで決算ベースでの暫定ということですので、まだ外にオープンにするにはちょっと暫定的過ぎるかなということで出してはいない段階です。

それから、予算編成方針については10月12日で、4ページ目、資料が出ておりますが、この段階で庁内に流した時点で、去年については、議会にも資料としてタブレットのほう

には送信させていただいております。

以上です。

## ○ 豊田政典委員

その予算編成方針、何度も言っていますけど、これは、もうとにかく部局が予算要求した上であるわけで、タブレットに流してもらうのはありがたいんですけども、議会も予算について議論するとすれば、本当は、ここを議論せなあかんのと違うのかという気がするわけです。

それは、予算提案権の侵害だという都市伝説もありますけど、そういうものじゃなくて、みんながより関わっていこうとすれば、議会がこのスタートから議論というか話し合っていないと、本当の予算審査にならないかなと思ってね。2月定例会議会で固まってきたやつを方針から覆さんならんというのは、議会としても基本的に無理ですから。

だから、できることは、個別事業の増減であったり、そこにとどまっていますけど、本来ならば、今日のこの委員会はありがたいなと思って来てもらっているんですけど、予算の立て方、大方針というところを、代表質問や一般質問される方もいますけれども、これこそが本当に重要な議会と行政とのやり取り、議論の中の部分だと私は思って今日の説明を聞いていました。

何かどなたか、前向きな見解があれば聞きたいなと思うんですけど。うつむいていますけど。

## ○ 廣田財政課長

地方自治法に定められた市長の提案権も十分ご承知の上で、議会がどこまでできるか、どこまで関われるかということだと思います。

当然、理事者側との協議の上で、財政的な影響も考慮して、これは双方協議の上でのめる案件だということであれば、今までも増額の修正であっても通してきた、再議に付すようなこともせずにさせていただいておるということもございます。

そういう意味では、対立関係にあるのではなくて、協議の上で着地点というのが見いだせるのであれば、予算案というのでも議会の意思というのがある程度反映しておるのかなと思っています。

例えば、よそのまちで市民1人に5万円配るとか、逆に理事者側がちょっと唐突もない

ことを言った場合は議会が止めるとかということもございますので、そういう意味では、両方がそれぞれの立場で財政運営に対して考え方を持って、最後、採決までいくのかなと思っております。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

最後に、また違うことを教えてほしいんですけど、一般会計の流れはこういうことかなと分かってきたんですけど、特別会計、企業会計はまた別なんですか、違うものなんですか。

#### ○ 廣田財政課長

2月定例会議会でもちょっと議論があった3%シーリングのときに企業会計は財政課が見ていないのかということなんですけど、全く見ていないわけではないんですけども、企業会計につきましては、それぞれの病院には経営係があり、上下水道局には経営企画課があって、財政課の予算担当者と同じ仕事をしている職員というのが一定数配置されております。

ですので、市の一般会計、特別会計の全体の当初予算編成方針を踏まえて、各企業会計のほうでも自分たちの予算編成方針というのをこれに準じた形でつくっております、独立採算ですので、自分たちの経営方針に従った形で予算査定というのをしてきます。

そういう中で、ただ、一般会計からの繰り出しというのがございますので、その繰り出し金を通じて、当初予算編成の中で一般会計からもそのような企業会計の予算では困るというようなことがあれば、途中で協議をさせていただいております。

特別会計については、一般会計同様に財政課のほうで調整査定をしております。ただ、これも、それぞれ独立採算が原則ということですので、特別会計を所管する所管課の意向というのは、一般会計よりも尊重させていただいております。

以上です。

#### ○ 豊田政典委員

ありがとうございました。

## ○ 樋口博己委員

少し前に豊田委員が自由度もあろうかねというお話をされました。

ちょっとこの8月の決算の資料を思い返して今見ていまして、経常収支比率の推移ということかなと思いながら、今、資料を見ておるんですけど、ずっと四日市は、全国的に比べるとこの比率が低くて、84%から88%をずっと推移しながら、平成30年度——これはキオクシアの関係ですよ——ぐっと74.42%に下がっています。全国的に見れば90%前後ぐらいで推移しておるということで、これは、平成30年度は基金をぼんと、余裕があったと、お金を積んだということなんですけど、これ、令和元年度、一昨年度ですか、74.8%で、令和2年度はこれから決算だと思えますけど、この辺で令和2年度は74.8%とか、そんな数字ではないと思えますけど、今後の見通しを含めて、これ、非常に投資的経費がしやすいという状況だと思えますけど、今後の考え方というか、基金は、初年度は積んだけれども、今後、より積極的な財政運営ができるのかな。その辺の考え方を教えてほしいなと思うんですけど。

## ○ 廣田財政課長

経常収支比率、一番よかったときは74.8%とか、破格の数値が出たわけなんですけど、それは、ご承知のとおり一時的な市税収入の増のおかげということがございます。

80%前半というのは、もう全国の自治体の中でも、愛知県の自動車産業で恵まれた不交付団体を長く続けるような自治体が、それぐらいの数字なだけであって、ちょっと電力会社とかの影響で特殊な財政力の豊かなまちというのがございますが、それ以外の四日市ほどの人口のあるまちで普通の産業都市でそのような数字が出るというのは、もう破格のトップクラスの数字だったかなと思っています。

そういうことも生かしまして、投資的経費については、最大限ここ数年ずっとこなせるだけの予算というのはさせていただいておるといふふうに思っています。

今後もずっと同じようにできるかというのは、工事の進捗とかのスケジュールの増減というのがございますが、当分は、大きなプロジェクトというのは、四日市のほうで当分続く形になるかと。各市の推進計画に位置づけた各市の大きなビッグプロジェクトがあるかと思えますので、その計画を予定どおり実施するために基金のほうも既に都市基盤のほうに積んであるということですので、このコロナで不景気になっているということもありますので、公共投資が下支えになりますので、当分は四日市というまちの活力が支えるよ



うな形で、できるだけ予算措置というのは下がらないように頑張っていこうかなと思って  
おります。

#### ○ 樋口博己委員

近鉄四日市駅周辺からJR四日市駅のこの整備は、全体的に200億円ぐらいですか、国  
の直轄も含めて。これ、本格的に、よし、やろうと、できると判断したのは、これはいつ  
頃なんですかね。平成29年ぐらいなのか、平成30年ぐらいなのか。これぐらいで決定した  
のかなということは、もし記憶があれば教えてほしいですけど。

このキオクシアの一時的な税収増の前からいろいろ議論して決定してきたのか、キオク  
シアが大きな決定要因になったのか、どうなんですかね。

#### ○ 廣田財政課長

ちょっと手元に資料がないので、推進計画に何年度から位置づけたかとか、予算とか事  
業の意思決定が何年度だったかというのは、ちょっと正確には思い出せないんですが、一  
企業の税収の影響で消えたというよりも、都市基盤公共施設等整備基金というのを70億円、  
平成30年度に積立てをしたということです。

そのアセット基金と同様に、アセットマネジメント基金を72.8億円積みまして都市基盤  
公共施設等整備基金も70億円積んだということで、その都市基盤公共施設等整備基金70億  
円を使って、本来は国体施設にも使っていく予定だったんですが、それがあまり借金せず  
に基金を取り崩さずに整備できたということで、70億円を使って、公共事業の国の補助金  
ですとかその裏の市債を借りたりしまして、頭金に当たる一般財源部分でどれぐらいかか  
るのかなという、そういう見通しも含めて基金の残高を見て、今の四日市で実施できる  
というふうにその頃に見通しを立ててございます。

#### ○ 樋口博己委員

分かりました。

市長がこの前の選挙のときの公約というか、市長選のときにおっしゃってみえたのが、  
四日市は20年、30年、大きな開発、投資をしてこなかったというふうなことを言われてみ  
えましたが、井上市政での厳しい状況の中で、田中市政で改善してきて、ちょうどそう  
いうタイミングだったのかなと思いますけど、先ほどの答弁で国体の見通しが思ったより

も財政的に豊かというか、財政的見通しよりも金額に余裕があったということが大きな要因だったということですかね、今のは。

○ 佐藤政策推進部長

今の中央通り周辺の整備に関してですけれども、これ、今までの総合計画の中には、推進計画等では位置づけはございませんでした。平成30年から令和元年にかけて議員の皆さんにお世話になりましたけれども、特別委員会と総合計画をつくっていく中で、都市整備部のほうとしてはやっぱり中心市街地の核として、「WE DO 中央通り」というキャッチフレーズでそれをやっていきたいというのが上がってきまして、推進計画のほうにもそういう事業を位置づけていったというような経緯がございます。

当然、それを進捗して進めるに当たっては、その都度その都度、年度ごとの財源を見ながらやっていかざるを得ませんので、いつまでにできるという確約はなかなか当時では難しかったとは思いますが、やっぱりリニアの2027年開通に向けてスーパー・メガリジョンの中で四日市がどう生き残っていくかという中で、都市整備部の方から発案が上がってきて、それを市としてもやっていこうじゃないかということでお認めいただいたような経緯でございます。

○ 樋口博己委員

これで終わりです。

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

そうしましたら、レクチャーのときにちょっと触れていただいたんですが、荒木部長から、こういう議会の絡みもそうなんですが、何といてもマンパワーが大切だということで、働き方改革推進担当理事というのを新たに新設されたというふうに伺ったんですが、

ちょっとご説明いただけませんか。

○ 渡辺総務部長

4月1日付で総務部長を拝命しました渡辺でございます。よろしくお願いします。

○ 萩須智之委員長

おめでとうございます。

○ 渡辺総務部長

今、委員長のほうからお話ございました働き方改革ということでございますが、この4月1日付の人事異動におきまして、担当理事の配置をしたところでございます。働き方改革のみではなくて、ほかの業務を合わせての担当の理事と。これは、総務部内に今回配置をされました。

働き方改革につきましては、ワーク・ライフ・バランス云々とか、いろんな内容がございますけれども、喫緊の課題といたしましては、時間外の抑制という部分が私どもは課題であるというふうに今考えてございます。

新型コロナウイルスの関係ですとか、今は国体の関係ですとか、今、職員が非常に人手不足な状況がかいま見られるところではございますけれども、時間外だけを減らせば働き方改革ということではないわけですが、喫緊の課題としてはそういった課題について取り組んでいこうということで今話をしているところでございまして、総務部だけでお話ししていても進みませんので、全部局の所属長を中心に、いわゆるマネジメントをしっかりとやっていただきたいと、そういう働きかけを今年1年やっていこうということで今取り組んでいる、取り組み始めたというところでございます。

以上です。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

一応これも新しい試みということで、結局は人がこの予算も組まれるということで、その辺のマネジメントをうまくやっていただければという点ではプラスになることを望みます。

それと、公会計改革が進む上で、この予算編成プロセスに与える影響というのはどうかというのがちょっとぼやっと思っていたんですが、例えば、施策、施設に対するチェックシート等で見える化が進んでくると、やはり決算、予算に対する評価というのは今まで以上に進むと思うんですね。当然、そういう資料が増えれば、根拠としての数字がしっかりしてくるので、予算を立案しやすくなると思うんですけど、その辺については、まだリンクするようなどころまでは行っていないとは思いますが、どういうふうにお考えかという考え方だけでもお示しいただけませんでしょうか。

#### ○ 廣田財政課長

今までの公会計の複式でない世界で現金主義の単年度の予算を組んできた時代というのは右肩上がりで、入ってきた税収に見合う歳出を組めば、それで予算編成はよかったんですけれども、人口も減る中で、施設も老朽化していく今の時代にあっては、公会計というのが言われてきた背景に、そういう今までには見えなかったストックが老朽化してきて、長期的に見るとすごいお金がかかるというのが自治体側から見えていないと。それに自治体に自ら気づかせて長期的な対策を考えさせるというのが公会計の大きな役割の一つなので、そういう意味では、各年度の予算の中にリンクして反映する段階にまでは、ちょっと申し訳ないですけれども入れておりませんが、公会計の作業を通じて、いろんな公共施設等のストックや、そもそも今後の方針を考えるのに示唆されることが多くて、それぞれの計画の中に、その見えてきた知見というのが、今生かす方向でそれぞれ検討が始まっているところだと考えています。

以上です。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。検討が始まっているという段階で、今後どんどん進めていただくことを望みますが、ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

(なし)

#### ○ 萩須智之委員長

副委員長、よろしいですか。

それでは、ほかにご意見、ご質疑もないようですので、本件はこの程度といたします。

ご意見等についてはある程度出尽くしたかと思っておりますので、本テーマでの調査はこれで  
終結したいと思っておりますが、これでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

異議なしのお言葉をいただきましたので、そのようにさせていただきます。

なお、本調査の報告書につきましては、お時間も限られておりますということで、正副  
一任とさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、そのように進めさせていただきます。

ということで理事者の方、お疲れさまでした。ありがとうございます、お忙しい中。  
理事者の退席をしていただきます。

すみません、まだ若干その他がございますが、休憩を取らず来ましたが、もう短いと思  
いますので、続けさせていただきますが、よろしいですか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

そうしましたら、お疲れさまでした。

続きまして、2、その他の(1)に入らせていただきます。

所管事務調査、高校生議会の意見書(複合災害対策委員会)についての報告書についま  
して、3月30日に実施しました休会中の所管事務調査の高校生議会の意見書、同じく複合

災害対策委員会についての報告書案を作成し、会議用システムにアップさせていただいております。修正等、ありますでしょうか。

○ 森川 慎委員

最後のまとめのところなんですけど、4行目ぐらいからワクチン云々の話が出てくるんですけど、あまり客観的なくくりじゃないかなと思うもので、ここだけ修正をいただいたほうがいいかなと思いました。

○ 萩須智之委員長

削除したほうがいいですか。

○ 森川 慎委員

削除ですね。ちょっとこの辺も不明確なところにまで言及されているかなと思うもので、今現状で確定していることではないと思うので、削除なり、ワクチンに多少触れてもらうなら、もうちょっとコンパクトに、今分かることだけを具体的に書いてもらうとか。

○ 萩須智之委員長

確定していることだけでということ。

○ 森川 慎委員

この辺のワクチン接種、この読みぶりやと、ワクチン接種が始まると、もうコロナは収まるみたいなふうにも取れるし、読む人によっていろいろ判断が変わってくる表現かな、書きぶりかなと思ったので、ここだけ気になりました。

○ 萩須智之委員長

このワクチンの部分だけを削除ということですね。

いかがでしょうか。

これ、9ページですね。ちょっと読みますね。

新型コロナウイルス感染症は人々の健康を脅かし、世界規模で経済を停滞させるなど、その影響は多岐にわたります。国による緊急事態宣言や経済対策等に加えて、各自治体に

においても独自の対策を実施しておりますが、感染の収束は見通せない状況が続いております。切り札として期待されているワクチン接種が医療従事者から順次始まりましたが、ワクチンの入荷数量は予定を大きく下回っており、一般の市民のワクチン接種には時間を要すると思われます。そのような状況の中でも、災害大国である我が国においては、毎年各地で地震や風水害などの被害が出ており、一般の市民のワクチン接種が始まるまでに避難を伴う災害が発生する可能性を想定しておかなければなりません。

この辺はいいわけですか。

○ 森川 慎委員

この辺が。

○ 萩須智之委員長

この辺が既に。

○ 森川 慎委員

例えば、一般市民へのワクチン接種が始まるまでに避難を伴う災害が発生する可能性というんですけど、これを言うなら、コロナウイルスの感染症が収まるまでに避難を伴う災害が発生する可能性だと思うので、ワクチンじゃなくて。

○ 萩須智之委員長

この辺を書換えということですね。

○ 森川 慎委員

お任せしますが、もう少し、ワクチンのいろんなことを書き過ぎかなと思ったので、ちょっと違和感がある、読んでいて。

○ 萩須智之委員長

2回目のワクチン接種が終わってれば、収束はしていなくても避難所へ入っていただくのには、さほど問題はなかろうという意味合いかなというふうに取ったんですが。

○ 森川 慎委員

そうやで、それも定かではないでしょう。

○ 萩須智之委員長

何も決まっていません。

○ 森川 慎委員

変異株も出てきているし、ワクチンを打ったら、これが収まるという保証は、イギリスとかでは大分減っていますけど、言い切れへんもんで、客観性に欠けるかなと思いました。

○ 樋口博己委員

ワクチンというよりも、感染症対策も配慮するというような意味合いに書きぶりをちょっと変えてもらうという話ですよね。ちょっと個別具体的に踏み込み過ぎたということですね。

○ 森川 慎委員

樋口委員の言われるようなことは、多分この冒頭とかに書いてあると思うもんで、全体的に削除でもいいかと思うんです。その辺はお任せしますもんで。

○ 萩須智之委員長

分かりました。感染症対策というふうに文言をちょっと広い形に変えてということで、ワクチンにこだわらないということですね。

○ 森川 慎委員

ワクチンがちょっと出てき過ぎやなど、ちょっと違和感がありましたので。

○ 萩須智之委員長

了解しました。

そのように変えさせていただくことでよろしいでしょうか。



(異議なし)

○ 荻須智之委員長

では、ほか、よろしいでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

では、また修正したのをメール配信で見ていただくということですね。

じゃ、正副にてまた修正したのをメールで送らせていただきますので、よろしくお願ひします。

修正等がその上であるようでしたら、4月23日金曜日までに事務局にお伝えいただきますようお願いいたします。速やかに修正させていただきます。

それから、2番目、(2)ですね。中長期テーマ、人口問題・シティプロモーションについて、報告書について報告書案を作成し、会議用システムにアップさせていただいております。

これについての修正等のご意見はいかがでしょうか。結構量がありますんですが。

○ 森川 慎委員

シティ・ミーティングとか、出してもらったぐらいでしょう。シティ・ミーティングの内容を出してもらったりはしないの。

○ 荻須智之委員長

すみません、担当が替わりましたもんでね、前の人と。

○ 森川 慎委員

そうだったと思うんですけど。

○ 荻須智之委員長

入ったはずなんですけど。

シティ・ミーティングを入れさせていただいたと思いますので、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、その上で、もし修正等が必要でしたら、4月23日金曜日までに事務局までお伝えいただきますようお願いいたします。

続きまして(3)の4常任委員会報告会の資料につきまして、4月30日に開催予定の4常任委員会報告会の資料につきまして、当委員会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した避難所運営について、それから、これまでの新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた本市の危機管理体制について、続いて、スマート自治体の実現についての3項目の所管事務調査報告書、また中長期テーマ、人口問題・シティプロモーションについての所管事務調査報告書を資料とすることが3月9日に確認されておりますが、今回ご確認いただきました高校生議会の意見書についての所管事務調査報告書も資料として追加させていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 萩須智之委員長

では、追加させていただきます。

また、本日実施の調査の報告書については、会議までに報告書を完成させることが難しいので、調査資料を用意し、口頭での簡易な報告とさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 萩須智之委員長

異議なしの言葉をいただきましたので、これにて本日予定しておりました項目は以上でございます。

ほかに何かございますでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございます。

14 : 54 閉議